



今は中央省庁所属です！

オルガノ(株)の高橋あかねさんからバトンを頂きました。高橋さんからは、展示会でオルガノさんのミネラルウォーターを頂いたり、テニスでは容赦ないサーブを浴びたりしていましたが、今回はバトンでした。思い返せば、初めてお会いしたのもテニスコートでした。素敵な笑顔とは裏腹に、右へ左へと厳しいコースに打ち込まれ、手も足も出なかったことをよく覚えています。その後は、学会や展示会、職場、宴席などで一緒に過ごす機会も増え、今回こうしてエッセイのバトンを渡していただくことになりました。

私は社会人になってからのほとんどを、LC/MS（液体クロマトグラフ質量分析計）のアプリケーションにかかわる仕事に費やしてきました。2000年4月、宝酒造で質量分析の担当になり、初めて触ったLC/MSが三連四重極質量分析計のAPI-3000でした。その後、ブルカードルトニクス、島津製作所と二度の転職を経験しましたが、やっていることはほぼ同じで、気がつけば四半世紀この分野におります。多くのラボを訪れ、装置説明やディスカッション、アプリケーション開発のお手伝いをし、学会や展示会を通じて本当にたくさんの方と知り合うことができました。

さて、何を書くかと考えたとき、こうしたキャリアを振り返るのも一案でしたが、実は私は2024年末の異動（出向）により、現在は期間限定で霞ヶ関の環境省に勤務しています。この少し特別なタイミングなので、今回はその仕事について触れてみたいと思います。

現在は、環境省大臣官房環境保健部化学物質安全課環境リスク評価室に所属しています。名前からして重厚感がありますが、この部署の大きな仕事の一つが、子どもの健康と環境に関する全国調査『エコチル調査』です。私もこのエコチル調査を担当しています。ちなみにエコチル調査について何度か認知度を調べているのですが、知っている人が国民の割に届かないという、ちょっと知る人ぞ知るプロジェクトです。

エコチル調査¹⁾は2010年度に環境省が始めた大規模な国家プロジェクトで、約10万組の親子の皆さまにご協力いただき、化学物質のばく露や生活環境などが子どもの健康にどのような影響を与えるのかを明らかにする出生コホート調査です。血液や尿などの試料については、環境省にはラボがないため、専門機関や大学で分析

が行われています。装置の前で「どう測るか」を考えてきた自分が、今は装置を離れ、測ってもらった結果を考えている…立場が変わったから仕方ないとはいえ、手を動かして分析しないのはちょっとさみしいです。

エコチル調査からはすでに600編以上の論文成果が出ており、重金属や残留農薬、有機フッ素化合物（PFAS）などに関する分析結果も報告されています。そこにLC/MSが使われていると、かつて自分がかかわってきた仕事が、こういう形で社会に役立っているのだな、と実感します。

一方で、エコチル調査の大きな課題の一つは知名度が低いことです。そのため最近では、広報的な業務にもかかわり、メルマガやSNSの記事を書いたり、エコチル調査全国フォーラム²⁾というイベントの運営にも携わったりしています。この全国フォーラムは、ノーベル化学賞受賞者の講演から、小中高生の研究発表、書道展や短歌展まで盛りだくさんで、イベント好きの私には意外と向いている仕事かもしれません。

私をご存じの方からすると、ずいぶん真面目な話を書いている、と思われるかもしれません。中央省庁に來たから急に人が変わった、というわけではないのですが、それだけこの調査が持つ重みを日々感じている、ということにしておきましょう。とはいえ、中身はあまり変わっておらず、広報やイベントの仕事では、つい楽しんでしまう自分もいます。

中央省庁に勤め、東京都民でいられるのも、そう長くはないかもしれませんが、それまでは東京暮らしを満喫しようと思います。

今回は、ジーエルサイエンス(株)の齋藤凜太郎さんにバトンを渡します。齋藤さんは学会とかでよく顔を合わせるのと、町田会（お互い、町田市在住じゃないですが）という飲み会でもよく一緒ですが、詳細はあえて語らず、次号をお楽しみに。

- 1) 環境省エコチル調査ホームページ、
<https://www.env.go.jp/chemi/ceh/index.html>).
- 2) 第2回エコチル調査全国フォーラム、
https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/2026_forum.html).

〔環境省/株式会社島津製作所 渡邊 淳〕